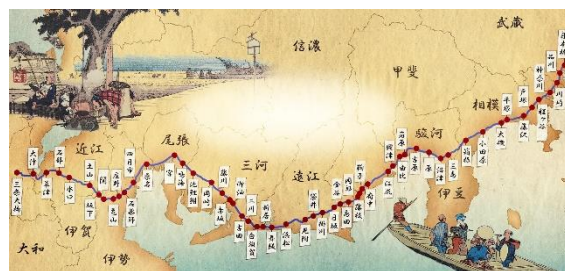


寅さん歩 その19

バーチャルウォークで 東海道を歩くー2



平野 武宏

「バーチャルウォークで東海道を歩く」は毎日の散歩などで歩いた距離を累計してFWAのHP「YR・四季の道」に掲載の東海道五十三次のコースシートの1マス2kmを塗りつぶして進みます。前回、赤坂宿から知立宿まで歩きました。今回は鳴海宿から石薬師宿まで歩きます。各宿場は歌川広重の浮世絵や写真(いずれも無料画像)で紹介します。各宿場については八柳さんからいただいた「完全東海道五十三次ガイド(東海道ネットワークの会)」を参考にしています。

[鳴海宿]

2023年12月5日鳴海宿(愛知県名古屋市緑区)(江戸・日本橋から340km)に到着です。途中には桶狭間古戦場跡の碑がありました。



写真左は「鳴海 名物有松絞」です。2軒の家はいずれも有松絞りを商う店です。有松絞りは絞り染をした綿の生地で、尾張藩の特産品でした。店の中では客と番頭が商談をしています。街道では徒歩、籠、馬と当時の交通手段で旅をする人々を描いています。

写真下は鳴海宿の名物うまいもの「手打ちうどん」です。手打ちうどんの寿限無茶屋は古い商家建築の遺構をそのまま残しているそうです。



[宮宿]

2023年12月9日宮宿（愛知県名古屋市熱田区）（江戸・日本橋から348km）に到着です。三種の神器の一つ草薙の剣を祀る1900年以上続く古社 熱田神宮があります。この先は宮の船着場から海路で桑名の船着場へ向かいます。



写真左は「宮 熱田神事」です。熱田神宮の「端午の走り馬」という神事を描いています。男たちが馬を先頭に早掛けする様子です。隊列をV字型に描くことでよりスピード感を表現しています。

宮宿のうまいものはいろいろありますが、「宮きしめん」（写真下左）、「きよめ餅」（写真下右）を紹介します。



[桑名宿]

2023年12月19日桑名宿（三重県桑名市）（江戸・日本橋から374km）に到着です。約七里（約27km）の船旅でした。



写真左は「桑名 七里渡口」です。桑名は木曾三川の入口に位置し、米市場が開設された商業の盛んな地でした。桑名城の立派な石垣が見えるので、宮から桑名までの七里の船旅も終わりです。船着場に近づいたので帆が下ろされています。



桑名の名物は時雨蛤です。桑名の沖合は、揖斐川、長良川、木曾川が伊勢湾に注ぐ合流点です。蛤の生息に適した水質と水温のため、上質の蛤が多くとれます。蛤は焼き蛤が有名ですが、保存食として時雨煮にしたものが古くから食されました。

[四日市宿]

2023年12月23日四日市宿（三重県四日市市）（江戸・日本橋から387km）に到着です。四日市は宮宿と同様、港を持った駅宿で、しかも伊勢参道への追分をひかえていたため、いつも賑やかでした。

写真下は「四日市 三重川」です。四日市の近くを流れる三重川（三滝川）付近の情景です。この絵の風で投げ飛ばされた笠を追いかける旅人、風になびく合羽、枝がしなる柳で強い風を描いています。



四日市宿の名物うまいものは「なが餅」(写真左)です。餡は北海道小豆を独自の製法で炊き、餅は国産米を丹念につき上げる。独自の製法で餡を包み平たく伸ばし両面を香ばしく焼き上げた戦国時代から多くの人に愛されました。

寅次郎の次女は四日市在住なので帰省の際にはお土産で持ってきます。



もう一つの名物うまいものは「采女の杖衝」です。日本武尊や松尾芭蕉が難所の杖衝(つえつき)坂を苦勞して上った故事から生まれた和菓子(写真左)です。つぶ餡の中にぎゅうひが入っている最中です。

[石薬師宿]

2023年12月27日石薬師宿(三重県鈴鹿市)(江戸・日本橋から398km)に到着です。宿場の南はずれにある石薬師寺の門前に開けた小さな宿場です。



写真左は「石薬師 石薬師寺」です。石薬師寺は弘法大師の石造り薬師如来像を本尊とする所です。背景の山を3層に描くことで遠近感、大気の透明感を表現しています。

石薬師は歌人、歌学舎、唱歌「夏は来ぬ」の作詞者の佐々木信綱の生まれた地で佐々木信綱資料館があります。

今回はここまでとします。

平野 寅次郎 拝